



国行政のあり方に関する懇談会

この懇談会の特徴



Female youthfulness

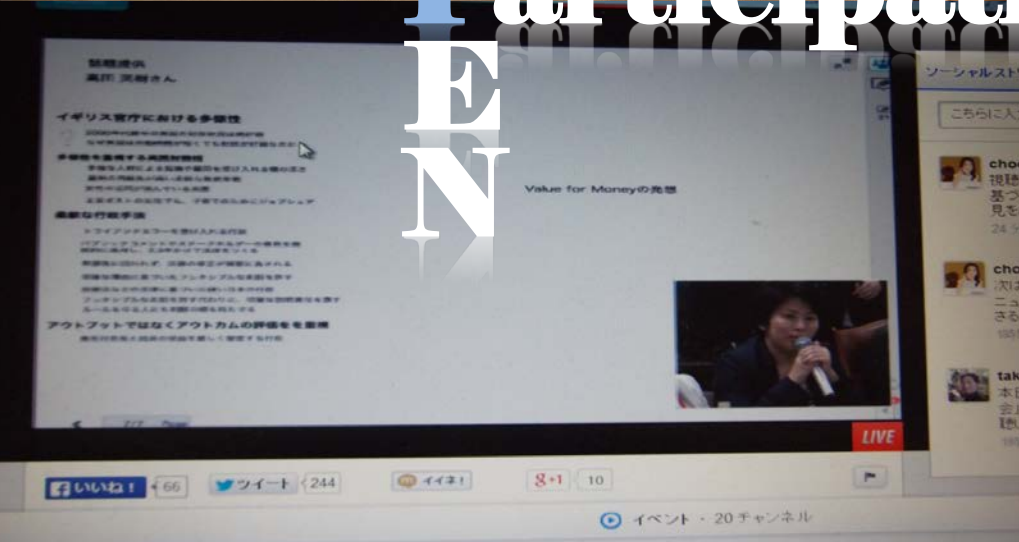
参加メンバーは
20～40代が中心
(平均年齢:約40歳)

女性が半数以上
(10人／17人)

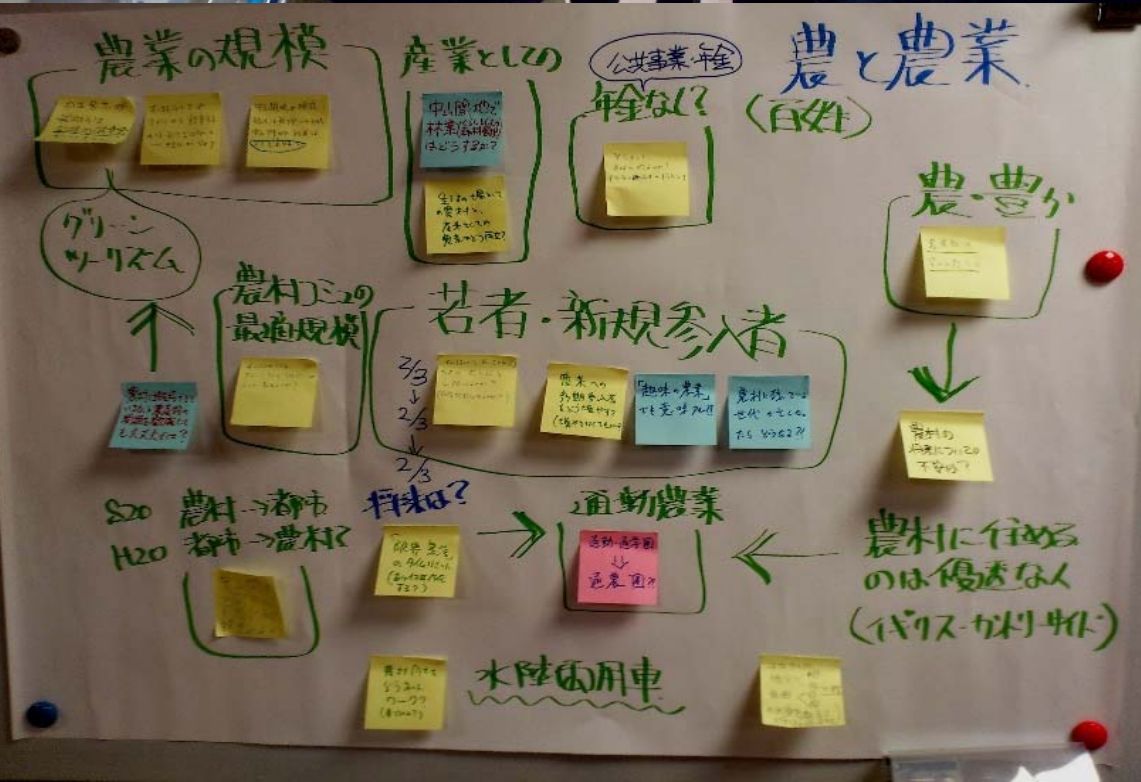
開かれた活発な議論



O P E N Participation



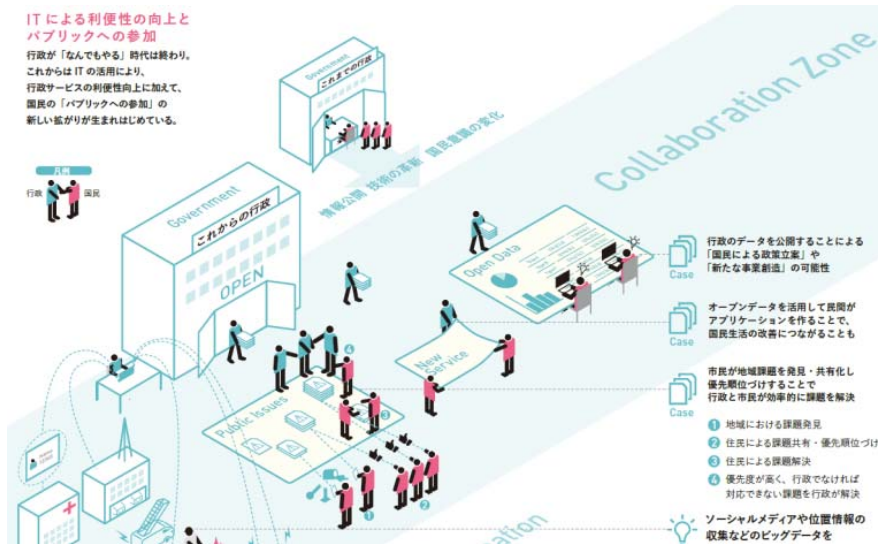
毎回のライブ中継とSNSを通じた意見交換
最先端のワークスペースを活用した開かれた会議
傍聴者も議論に参加



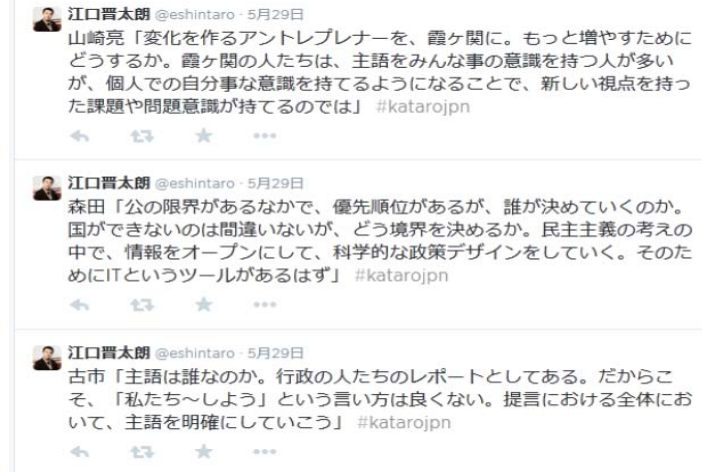
Work Shop

筋書きなし
メンバー・役人・傍聴者…
全てを巻き込んだアイデア出し

Design -Infographics

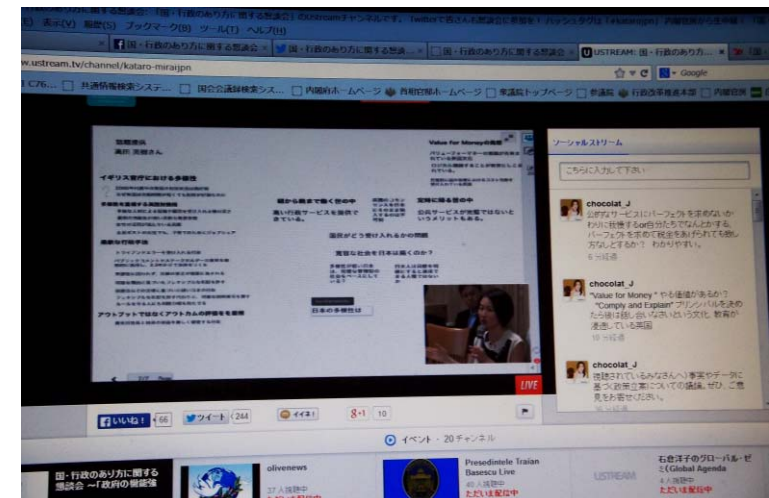


イラストや文字を使って分かりやすく情報を整理
・見せて伝える議事概要



Live Tweet

会議内での発言を140文字以内で、リアルタイムにツイート



人脈の可視化
地域コミュニティのリソースを可視化
誰(誰か)を信じればいいのか...

名刺交換した相手をデータベース化
→ 誰と誰が仲がいいのかわかる

人脈は財産 でも政府レベルではどうなっているのか?

宮内省でも昔は比べれば
相対合や情報交換が
なかったと云う

企業にとってリスク研究がCSVな時代になつていくのでは?
今更だに行政に負担が集中するが
企業でリスク研究を進められれば◎

個人で判断して行っている
人々の数に比べれば、
個人の判断が認められる

事前にルールを作るのが重要
→ **Good Point** 日本はルールを守り国
しがルールを守れない人には
どうすればいいのか?

「どうも関係ない」
都市部でどうコミュニティをつくるのか?
健康マージンのような活動を通して
LCPに近づけることは?

若い頃から親しくしていた所ではコミュニティは
できるが、高齢化してからコミュニティを作るのは
難しい。

→ 高齢化が進んだ地域の
コミュニティ活動はどう見えるか?
行政に頼りすぎた民間には何かできるか?

リスクという概念自体がない人には
どう伝えられるのか?

→ 「肉体的な被害力が得られる場」を
設けること
「大きい危険」と「小さい危険」
→ リスクはどれくらいではない
しかし「小さい危険」にはできる

大人は「自」と「他」の判断になりから
更に規制で全てを自か他かにしてしまう
→ 自分で判断できなければならぬ

経済学では、リスクと不確実性を区別している

何がどのくらい
危ないかわかる
リスク

どのくらい確率で
起こるかわからない
不確実性

大オオムの話を聞いて → インドの子供たちは不確実な世界がリスクの世界に変わったのは?
...不確実な認識をリスクに変える必要がある!

レジリエンス
より強くカンペキ どのくらい
予測できないことに対応する力
... 個人が主体的に 対応能力を高める

レジリエンスの教育
「強さ、ゆとり、寛容な心」という考え方
||
何が起るに際して、どのようにうまく対応できるか、という考え方
そのために必要なのは、「個人のリスクの許容度」
主観性 < 客観性? 主観性 < 客観性

効率的なリスクマネジメントと社会的弱者の救済
(弱者=防災・減災を自分力でできない人)
できるだけの多くの人に防災・減災が求められる方法が必要

一度おいた失敗は
絶対に繰り返さない

アメリカのように同じ失敗を繰り返さない仕組みを
どうやったらみんなで作れるか?

低リスクでリスクに向きあ、ていくか?
ハード ソフト
ソフト対応は 行政が全て行う必要は
ない。(ex: フローレス)
地域や民間でできる
ベストプラクティスをシェアしていく
ことが必要



Design -Graphic Recording

議論の流れをイラストや
文字でわかりやすく表現。
しかもリアルタイムに。

